

「神さまは言わなかったよ」

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン

「今日のフォーカスチェンジ」第2632号
(2011年1月12日発行)より

今朝起きたら、ふっと、ことばが降りてきました。「神さまは言わなかったよ」…？何のことかなあ。しばらくじっと考えました。そしたらまたかすかに聴こえたような気がしました。「…区別しなさいなんて」

…ああ、そうか。腑に落ちました。それは、こういうことばだったのです。「宗教がちがうからといって、区別しなさいなんて、神さまは言わなかったよ」

そう。言わなかった。たぶん。大昔のことはわからないけど、きっと、神さまなら言わない。そしたら、あとからあとから、ことばが吹きこぼれてきました。

「民族がちがうからといって、区別しなさいなんて、神さまは言わなかったよ」
「性別がちがうからといって、区別しなさいなんて、神さまは言わなかったよ」
「年齢が上だから、下だからといって、区別しなさいなんて、神さまは言わなかったよ」

「考えかたがちがうからといって、区別し

なさいなんて、神さまは言わなかったよ」

それは、本当に、きっとそうなのだろうと思うのです。きっと、どここの神さまだって、「うちの宗教だけが一番で、ほかの宗教は価値がない」なんて、言わなかったらと思うのです。ましてや、「うちの宗教が一番だから、ほかの宗教は否定しなさい。信じているひとがいたら、やめさせなさい」なんて言わなかったらと思うのです。

でも、いま、争いを引き起こしているのは、その「ちがい」なのです。その、ことなるどちらかが正しくて、どちらかがまちがいだという考えが、相手との溝をつくります。そして、どちらかがどちらかにしたがわせようとするとき、まさつが起きるので

神さまが言わなかったことを、人間が言っているのです。神さまが考えてもいないことを、人間がやっているのです。そして、もしかしたら、自分自身もまた、同じことをやっているのかもしれない。

さまざまなちがいを、無意識のうちに、否定したり、批判してしまったりしているのかもしれない。

ちがうのは、当たり前なんです。ちがうことによって区別するのだとしたら、厳密には、私たちは、誰ともつながることはできません。六十数億の人間がいて、誰ひとり、完全に同じ人間なんていないのですから。

ちがいはちがいのまま、みとめあつたらいいのです。ただ、そのちがいによって、起きてくるさまざまな課題を、一つひとつ、ていねいに見ていけばいいのです。

自分が、それにたいして感じていることを伝え、相手が思うことを受け止め、そのすりあわせのなかで、受け入れられること、受け入れられないことをあきらかにし、そのうえで、どのように関わっていくのかを決めていってほしいのです。あらそう以外の方法でね。

もちろん、ことは、そう簡単ではないでしょう。何しろ、神さまでさえ言っていない、やっていないことを、人類は、延々とやりつづけてきたのですから。

でも、気がついたひとから、はじめたらいいのです。気がついたひとしか、はじめめることはできないのですから。

今日のメッセージは、けっして大上段に

ふりかぶって、あなたに押しつけようというものではありません。私が、私自身にたいして投げかけてみたことばを、たまたま、あなたに読んでいただいただけのことなのです。

でも、よかつたら、いっしょに考えてみていただけるとうれしいです。そして、できることなら、区別しあわないですむ世界のために、できることを、あなたなりのかたちで、はじめていただけると、とてもとてもうれしいです。

私もともに考えます。私もともに、その道を行きます。

●追記

今日のメッセージのなかで使っている「区別」ということばは、たぶん、本来は、「差別」という表現を使うのが妥当なのだと思うのですが、降りてきたときのことばが「区別」だったので、そのまま使いました。

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、**2003年11月1日**創刊。**2010年12月、2600号**達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>